

令和5年度 第6回浄水地域会議 会議録

■日時 令和5年9月13日(水) 午後7時～午後8時30分

■場所 浄水交流館 1階 大会議室

■出席者

<委員>	上田 信也	久世 正敏	佐竹 修
	土田 洋	土井 英二	堂元 雅昭
	成瀬 博文	野畑 安浩(会長)	三輪 晃久(副会長)
<欠席>	郡家 泰広	種元 涼湖	
<交流館>	水野 小百合(浄水交流館長)		
<市長>	太田 稔彦		
<関係職員>	後藤 哲也(地域振興部 部長)	都築 和夫(企画政策部 副部長)	
	宮川 恭子(企画課 副主幹)	大光 圭二(都市計画課 副課長)	
<事務局>	岡本 裕之(地域支援課 課長)	松下 誠(地域支援課 副課長)	
	山本 祐揮(地域支援課 担当長)	伴 悠平(地域支援課 主査)	

■次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 市長あいさつ
- 4 諮問・答申
 - (1) 諮問書の授受
 - (2) 諮問内容に関する説明
 - (3) 質疑応答及び意見交換
- 5 連絡事項

■議事(要約)

- 4 諮問
 - (2) 諮問内容に関する説明
企画課及び都市計画課職員から資料のとおり説明
 - (3) 質疑応答及び意見交換
別紙のとおり
- 5 連絡事項
答申までの流れについて野畑会長から説明

■今後の予定

第7回浄水地域会議

10月11日(水) 午後7時 ～ 浄水交流館 大会議室

第6回地域会議 質疑応答 議事録

<p>委員</p>	<p>伊保原自治区は世帯主の平均年齢が75歳を超えており、高齢化が進んでいる。選挙の際に投票所の浄水町区民会館まで歩いていけないため、送迎してほしいなどの声があり、自治区役員が送迎を行っている。また、バス停まで歩いていけないという高齢者も多く、移動に関する課題が多いが、担い手がない。乗合タクシーやIT等の最新の技術を活用して何かできるといいと思っているが、どのように考えているか？</p>
<p>市長</p>	<p>総合計画のまちづくりの基本的な考え方の中に「つながり・関係性の拡がり・深まり」の重視、あるいは「あるものを生かす」という発想への転換がある。おそらくこの課題を自治区内だけで解決することは難しいため、仕組みや制度を作った上で、大学生など自治区外とのとつながりの中で担い手を確保することも考えなければならないのではないかと。豊田市は自治区、小学校区、中学校区単位で課題解決策を考える傾向にあり、ありがたい反面、可能性を狭めているともいえる。浄水地域の避難訓練においても、浄水完結型の避難訓練はとても大事だが、水害で河川が氾濫するようなことがあると、高台への避難が必要になる可能性があり、そうなったときに病院やスーパーもある浄水地域が他の住民の受け入れ先として選ばれる可能性がある。地域を超えて考えたほうがいいこともあり、交通や移動の課題についても同様である。</p>
<p>委員</p>	<p>子どものころ小原に住んでいて、昭和47年7月豪雨で被災し、浄水地域にきた。お盆に小原に帰ったときに、地域住民から「何も変えてほしくない、このままがいい」という意見を聞いて、私は変えてほしくないものも見極める、考えるべきだと思っている。次期計画のまちづくりの基本的な考え方の中に「3つの変えるを意識」とあるが、変えないものも重要ではないかと思っている。</p>
<p>市長</p>	<p>変えないものも必要であるという考え方は大切なことだと思う。先日、浄水中学校で子どもたちと意見交換をした。子どもたちに家から学校までの道すがらで、雑草に遭遇せずに学校に着ける子はいるか？と質問したら半数くらい手が上がった。そのときに小原のような地域とどちらがいいのかと思った。いろいろなところで話しているが、光触媒を発見された名誉市民の藤嶋昭先生と話したときに「藤嶋先生が小学生のころに住んでいらっしやっただ助の6年間はどうでしたか？」と質問したら、「何もなかった」と笑って答えられたが、蛍の数を数えたり、雲の流れをみて天気を予測したりしたことが科学者になった自分につながっているとおっしゃっていた。また、「雑草という草はない」という言葉を残された牧野富太郎先生は、通学の道すがら、毎日ひとつ雑草の名前を覚えるだけで人生ものすごく充実するという話をされた。便利になれば暮らしが快適になると私たちは</p>

	<p>思っているが、便利さを追い求めていった結果、それが地球温暖化や自然災害につながり、便利な暮らしが決して快適な暮らしにつながるのではないと思う。どのくらいの便利さがいい塩梅かは分からないが、便利すぎでもなく、不便すぎでもない「程良さ」が必要だと考えている。計画の中でもそういったイメージを持てるとよいと考えている。</p>
委員	<p>全国でマイナンバーによるいろいろなトラブルが起きているが、豊田市としてどう考えているか。また、まちの活性化のため、プレミアム商品券を豊田市全体で販売できないか？</p>
市長	<p>マイナンバーカードの発行数に対しての不具合や返納者の実数をどう捉えるかであり、人為的ミスが発生しないように考えていくしかないと思っている。プレミアム商品券は税金を使っているため、どこまでやるのかという話になる。このまま税金を使い続けると、最終的に負担するのは今の子どもたちになるため、メリハリをつけなければならないと思う。</p>
委員	<p>浄水地域で民生委員をやっている。民生委員の仕事は大変なことも多い中で、民生委員の担い手が少ないのが現状であり、広報等でPRした方がいいと思う。また、豊森なりわい塾の矢作川の間伐ボランティアにも参加しているが、地域の方から作業音がうるさいなどの苦情等があり、活動がなかなかできないこともあり、同じく周知やPRが必要だと思っている。</p>
市長	<p>民生委員をやっていただき、感謝申し上げます。間伐については、合併時に豊田市100年の森づくり構想が作られて、基金を20億円積み立て、計画的に間伐をやるという体制でスタートした。山の所有者がわからない等の問題があったが、計画的に間伐していこうということで地道にやってきた。そんな中で地域の方たちと豊森なりわい塾の間伐ボランティアさんでうまくいかないときもある。今後は人生100年時代であり、健康寿命を延ばすのが勝負である。何かの役を引き受けることが健康寿命を延ばすことに重要だと思う。誰もがあてにされ、感謝されるような地域社会を作ることが必要だと考えている。何かの役を引き受けることは大変なことや苦勞することもあるが、特に民生委員の担い手を確保するためには楽しい姿を見せていくことが大切であると思う。</p>
委員	<p>豊田市には何の不便も感じておらず、大変ありがたいと感じている。市長含め、市職員の健康管理やメンタルヘルスについて何が大切だと思うか？健康であることがミライ構想の方向性に書いてある「暮らし楽しむまち・とよた」につながると思う。</p>
市長	<p>仕事に限った話ではないが、人に楽しませてもらおうという考え方ではなく、自分から楽しくしようという心構えや笑って過ごそうという気持ちを</p>

委員	<p>持つことがとても大切だと思う。</p> <p>えきちか居住誘導エリアは、駅近辺に居住を作っていこうという話だと認識している。私は浄水で育ち、浄水地域は元々、数百人程度の人口だったが、区画整理事業により、町が整備され人口は爆発的に増えている。そういう手法を使うと、市街化が進み、浄水地域のような便利なまちが形成されると思う。こういった浄水町のようなまちを想定しているのか、あるいは調整区域を外して市街化を進めていくようなまちを想定しているのか？</p>
市長	<p>豊田市には鉄道の駅が26あり、鉄道駅1キロ以内、バス停500メートル以内の人口カバー率は90.5%である。しかし、豊田市は、ドアツードアの車が便利なので車に乗れるうちは鉄道やバスは使わないという習慣を持ったまちであり、鉄道を使うという意識が少ない。しかし、若い時に郊外に住んでいても、高齢者になったときに、駅がある地域に住みかえようということが、これまで繰り返されてきていると思う。そうなったときに26ある場所を生かさなければならない。ただ、浄水のようなことをほかの地域ではできないため、現実的な選択の中で、市街化区域設定をして宅地の数を増やしていく、誘導していくという考えである。豊田市は地価が高いため、家族形成期に豊田市街の郊外で一戸建てを購入するケースが多い。地価を大幅に下げることにはできないため、現実的に宅地を増やしていこうと考えている。</p>
委員	<p>浄水地域で何の不満もなく暮らしている。自治区の仕事を今年から始めたが、日中仕事をしているため、自治区の方から意見を聞くという手段がない中で、自治区のLINE公式アカウントを作っていただいた。このようなデジタル的な手段で意見を聞くことができると思ったが、自治区の役員会で話しても反応がよくなかった。使い慣れてない高齢者等にうまく周知できればいいと思っているが、どう考えるか？</p>
市長	<p>デジタル化は実証段階であり、これからの話だとは思っている。先日、女子大生が起業して作った「musbun」という会社と協定を結んだ。福祉関係のマッチングアプリを開発している会社であるが、この会社が高齢者施設の利用者にスマホの講習会を開いた。他にも同じような取組をしているグループがあるので、そういった活動の積み重ねが大事だと思う。</p>
委員	<p>第8次豊田市総合計画の取組状況にある「高齢化社会への適応」などについて、この地域においても課題だと感じている。わたしは上豊田駅周辺に引っ越してきて30年経過したが、駅周辺とはいえ、この地域では車が必要な場所だと感じている。えきちか居住誘導エリアの話があったが、浄水地域においても、車がないと生活できないような場所があるが、どう考え</p>

	ているか？
市長	上豊田駅周辺については、開発の話はでていますが、北バイパスや地権者の御理解等が必要であり、全体で解決しないといけない問題がある。ただし、上豊田の開発については、梅坪地域と浄水地域をどうつなぐかという意味で大変重要で、課題認識を持っている。
委員	愛知県は魅力のないまちの日本一としてニュースになっていた。私も家族で豊田市ならどこに行くかという話をしていたが、なかなかここにこうという場所がないと思っている。豊田市以外の方も豊田市に来てもらえるようなまちづくりをしてほしいと思っている。
市長	基本的に豊田市民は自己肯定感が低いと思っている。その中で、問題なのは子どもたちが豊田には何もないということを大人から引き継いでしまうことである。例えば、山村地域の大人たちがここには何もないと言えど子どもたちが外に出て行ってしまい、過疎化が進むと思う。子どもたちへの伝え方は丁寧にするべきだと思う。浄水地域についても、便利で恵まれすぎて、地域への愛着が持てず、仕事で外にでていってしまうかもしれない。歴史や文化など、こだわりがあるものを共有できればいいが、なかなか浄水地域では難しいため、子どもが愛着を持てるような新しいものを意図的につくるべきだと思う。